

グローバルに展開し成長する全員参加の開発型企业

第155期 報告書

2013年4月1日~2014年3月31日

TOMOEAWA BUSINESS REPORT



2014年6月19日に
創業100周年を迎えました

<http://www.tomoegawa.co.jp>

ごあいさつ



■ 第155期(2013年度)の業績

2013年度の日本経済は、円高是正や株高が進み、緩やかながらも景気の回復基調が続きましたが、世界経済は、新興国経済の減速や欧州債務問題などが懸念される中で、依然として先行き不透明な状況が続いています。

このような状況下、プラスチック材料加工事業では、半導体関連の受注が軟調に推移したものの、トナー関連では輸出環境の好転や海外関連事業での拡販が寄与し堅調でした。また、製紙・塗工紙関連事業では、輸入バルブの高騰など原燃料価格の上昇もあり、歩留向上やエネルギー使用効率の改善など収益改善対策を推進しました。

この結果、当期の売上高については、トナー関連の規模拡大はあったものの、連結子会社であった株式会社TFCを連結範囲から外したことから、前期比1億9百万円減収の346億1千3百万円(0.3%減)と前年度を若干下回りました。

利益面については、円安影響に加えてコストダウンへの取り組みが進んだことにより、営業利益が前期に比べて3億8千8百万円増益の9億1千8百万円(73.4%増)、これに為替の変動に伴う評価益などが加わり経常利益が6億5千6百万円増益の9億8千万円(202.6%増)、当期純利益が3億8千2百万円増益の6億6百万円(170.6%増)となりました。

また本年2014年が当社の創業100周年にあたることから、各利益項目が業績予想値を上回ったことも踏まえ、当期末配当は記念配当を加えて1株当たり6円としました。

■ 第5次中期経営計画の進捗

第5次中期経営計画2年目の当期においては、

グローバル化を見据えた構造改革を推進する中で、新たな活動拠点として台湾に駐在員事務所を設置しました。既に進出している米国や中国の工場においては、生産性の向上や収益改善が順調に進み、2ページにあるように海外売上高・生産高ともに上昇しています。新規事業・新製品開発については、特に電気・電子材料分野や機能紙分野において、鋭意活動を推進しています。また、塗工技術の応用による新規案件の立ち上げも目指しています。これまでの2年間で有望な案件発掘はあったものの、収益貢献には当初想定より暫し時間を要する状況です。

中期経営計画最終年度においては、これらの活動に加え、国内のみならず海外市場におけるマーケティング活動の強化にも更なる経営資源を投下し、今後50年の礎となる次の中期経営計画策定に繋げてまいります。

■ 第156期(2014年度)の展望

次期の業績予想については、連結売上高350億円(1.1%増)で当期ほぼ横ばい、営業利益10億円(8.9%増)で若干の増加となる一方、為替変動の特殊要因がなくなることから、経常利益8億円(18.4%減)、当期純利益5億円(17.5%減)を見込んでおります。

2014年度の配当(予想)については、安定的な配当を継続実施していく基本方針に則り、1株当たり5円の期末配当を予定しております。

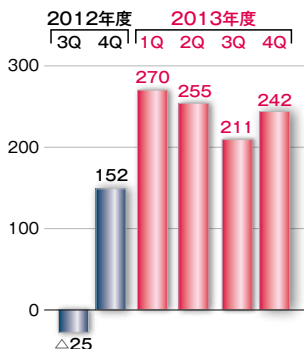
株主の皆様におかれては、引き続きのご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

井上善雄

■ 四半期ごとの経常利益

(単位:百万円)



△100

業績ハイライト

トピックス

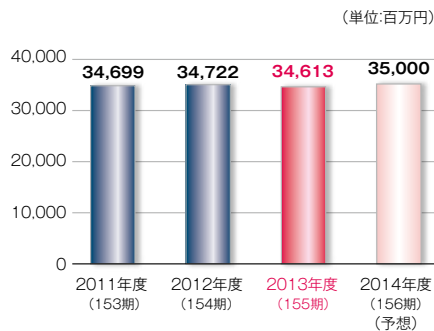
2期連続での増益の実現

プラスチック材料加工事業では半導体関連製品が軟調でしたが、トナー関連分野では拡販が寄与し堅調に推移、また製紙・塗工紙関連事業では歩留向上やエネルギー使用効率の改善など収益改善対策を推進したことから、2期連続の増益を実現しました。

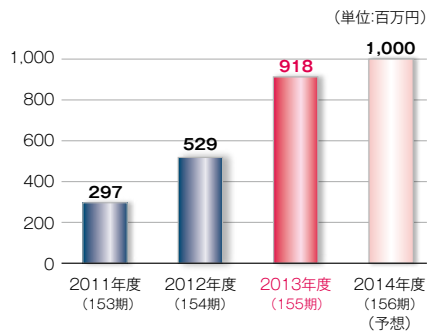
グローバル化の進展

中期経営計画において、理想の姿を「グローバルに展開し成長する全員参加の開発型企业」と定め、グローバル化を見据えた構造改革を推進する中で、海外売上高比率が前々期の26%から前期は30%、当期は35%まで上昇、同じく海外生産高比率も前々期の15%から前期は20%、当期は22%まで上昇しています。

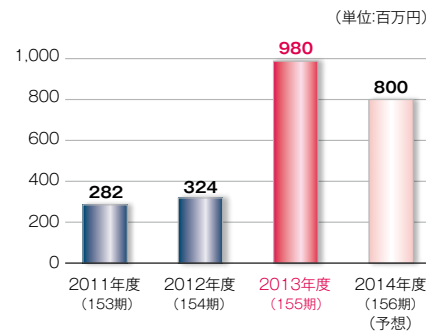
■ 売上高



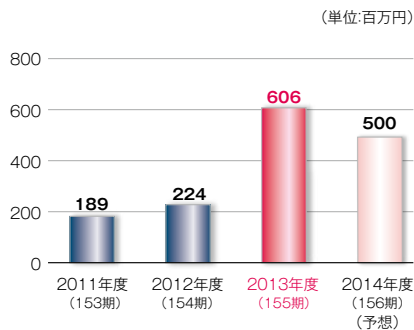
■ 営業利益



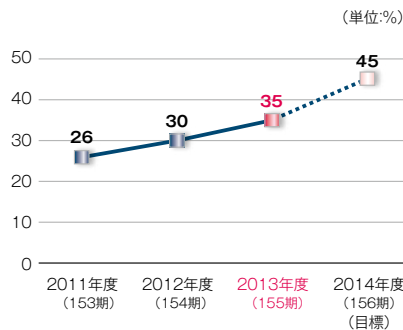
■ 経常利益



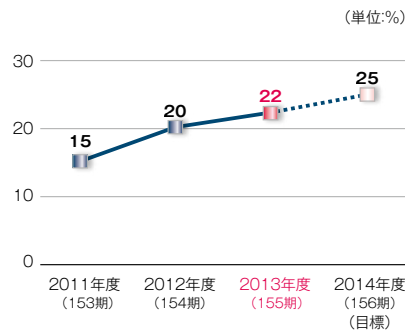
■ 当期純利益



■ 海外売上高比率



■ 海外生産高比率



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	2012年度 (2013年3月31日)	2013年度 (2014年3月31日)	
資産の部			0
流動資産	20,329	19,764	10,000
固定資産	21,580	19,614	20,000
			30,000
			40,000
			50,000
合計	41,909	39,378	1

(単位:百万円)

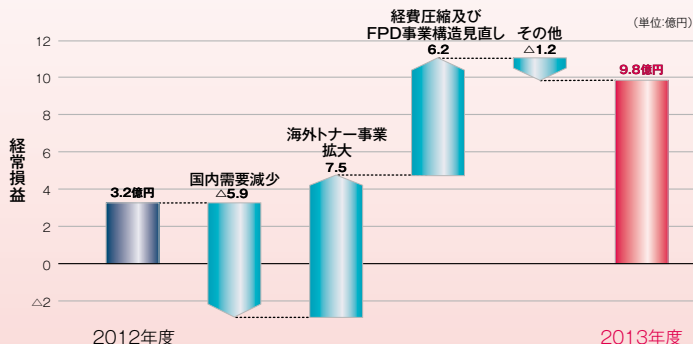
科目	2012年度 (2013年3月31日)	2013年度 (2014年3月31日)	
負債・純資産の部			0
流動負債	16,937	18,510	10,000
固定負債	12,241	7,976	20,000
株主資本	12,195	12,549	30,000
少数株主持分 & その他包括利益累計額	535	342	40,000
			50,000
合計	41,909	39,378	

POINT ポイント1

2013年度は借入金の返済が進んだことに加え、株式会社TFCを連結範囲から外した影響で、負債の中に含まれる有利子負債残高は141億円となり、前年度末に比べて32億円減少し、6期連続の減少となりました。また同じく株式会社TFCを連結範囲から外した影響で総資産の圧縮が進み、自己資本比率は28.0%から30.5%へと、引き続き改善しました。

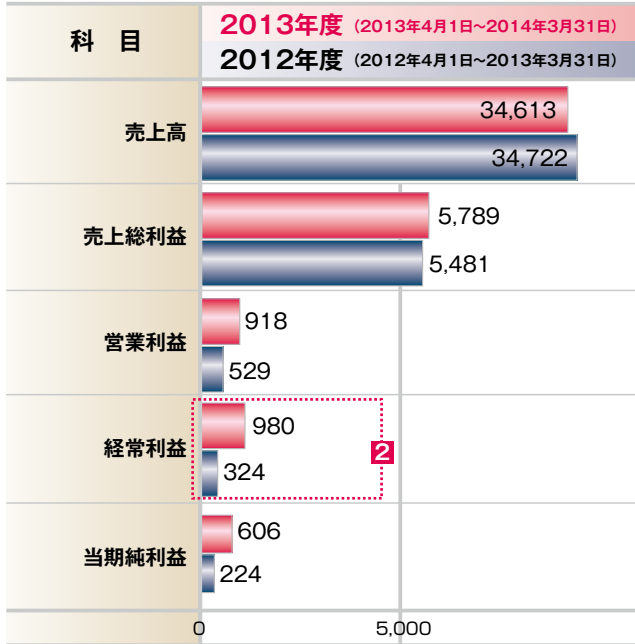
ポイント2

対前年度での経常利益増加(+6.6億円)の主たる要因は右の通りです。



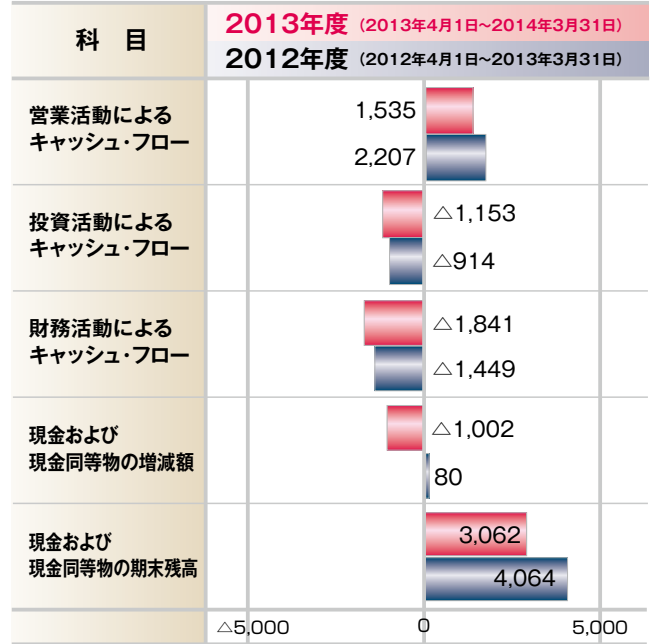
■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)



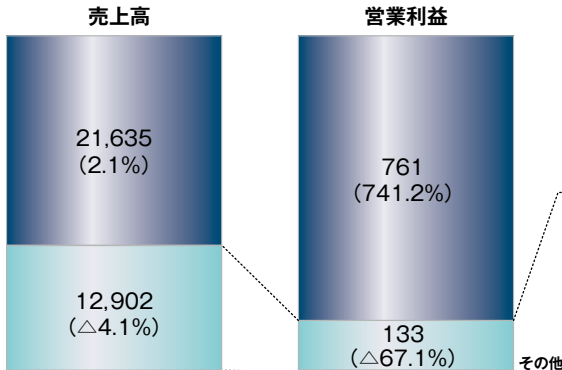
■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)



■ 主なセグメントの事業概況

(単位:百万円 対前年度増減率:%)



プラスチック材料加工事業

プラスチック材料加工事業では、半導体関連製品の受注減を、トナー関連での円高是正による輸出環境好転や海外関連事業での拡販が補い、セグメント営業利益は対前年度741.2%の大幅増益となりました。

製紙・塗工紙関連事業

製紙・塗工紙関連事業では、塗工紙分野での市場縮小が進む中、歩留向上やエネルギー使用効率の改善などを推進したものの、前期の増益に大きく貢献した新製品効果が一巡したことから、セグメント営業利益は対前年度67.1%減となりました。

創業100周年記念事業



当社は2014年6月19日に創業100周年を迎えました。

これまで当社の発展を支えて下さった株主様やお取引先様との更なる関係強化を目指し、また創業以来の主要製造拠点である静岡地区の皆様への感謝の気持ちを込め、次の50年を生き抜くための礎となる施策を、順次行っております。

JR静岡駅南口に100周年記念の屋外看板を設置

JR静岡駅南口のテナントビル屋上に、100周年ロゴをデザインした当社看板を設置しています。



Jリーグ「清水エスパルス」IAIスタジアム日本平に100周年アドボードを掲出

2004年からサポートを続けているJリーグ「清水エスパルス」のホームグラウンド・IAIスタジアム日本平に100周年記念デザインのアドボードを掲出しています。



当社ホームページ内に100周年記念サイトを期間限定で公開中

製品・技術の流れを中心とした「100年の歩み」や、当社製品を利用した開発の思い出をご担当者にインタビューした「開発エピソード」等を公開しています。



会社紹介DVD・会社案内を作成

当社の歩みを紹介するDVDや、当社の技術や将来展望などを幅広く紹介した会社案内を新たに作成しました。DVD映像は当社HPで公開予定です。



静岡事業所で100周年記念イベントを開催

5月25日、「100周年記念イベント」を開催しました。各種ステージやグルメコーナーが設けられ、芸能人をゲストに迎えるなど、賑やかな1日となりました。



東京・護国寺で合同慰霊祭を実施

5月31日、東京都文京区の護国寺で、創業以来の物故社員・家族・関係者等、先人の労苦をしのび、感謝を捧げる「合同慰霊祭」を開催しました。



会社概要

(2014年3月31日現在)

商号	株式会社巴川製紙所 (TOMOEGAWA CO.,LTD.)
創業	1914年(大正3年)6月19日
設立	1917年(大正6年)8月15日
資本金	2,894,953,550円
従業員数	連結 1,103名 単独 383名
主要事業所	本社(東京都中央区) 静岡事業所(静岡市駿河区) 清水事業所(静岡市清水区) 大阪営業所(大阪市生野区) グループ会社事業拠点 静岡市、大阪市、岡山市、潮来市 米国、オランダ、中国、香港、韓国、インド、台湾

役員

(2014年6月24日現在)

取締役

代表取締役社長	井上 善雄
取締役専務執行役員 電子材料事業部管掌 兼 画像材料事業部長	今田 俊治
取締役専務執行役員 精密塗工事業部管掌	三井 清治
取締役常務執行役員 CFO 経営戦略本部長	山口 正明
取締役上席執行役員 研究開発本部長	越村 淳
取締役	石垣 茂
社外取締役	小森 哲郎

監査役

常勤監査役	吉田 光宏
社外監査役	鮫島 正洋
社外監査役	松下 和興

執行役員(専任)

事業推進本部長	大澤 泉
電子材料事業部長	作本 征則
機能紙事業部長	松田 敦
精密塗工事業部長	川島 浩志
研究開発本部副本部長	村田 力
画像材料事業部副事業部長	中村 公彦
営業推進本部長	井上 雄介

株式の状況

(2014年3月31日現在)

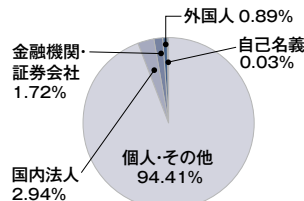
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	51,947,031株
株主数	3,025名
大株主	

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
凸版印刷(株)	5,697	10.9
栄紙業(株)	3,336	6.4
昌栄印刷(株)	3,314	6.3
鈴与(株)	2,494	4.8
三井化学(株)	2,439	4.6
(株)三井住友銀行	1,979	3.8
三弘(株)	1,751	3.3
東紙業(株)	1,688	3.2
井上善雄	1,556	2.9
巴川製紙取引先持株会	1,474	2.8

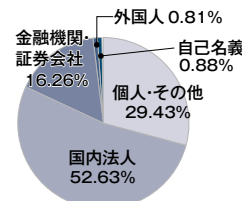
※自己株式を含む

株主の分布状況

株主数比率



株式数比率



■ 株主メモ

証券コード 3878
事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
同 連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
☎ 0120-232-711 (通話料無料)
同 取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所 東京証券取引所
公告方法 電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.tomoegawa.co.jp>
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。)

1単元の株式数 1,000株

TOMOE GAWA

株式会社巴川製紙所

本社 〒104-8335 東京都中央区京橋1-7-1
静岡事業所 〒421-0192 静岡県静岡市駿河区用宗巴町3-1
清水事業所 〒424-0831 静岡県静岡市清水区入江1-3-6
大阪営業所 〒544-0034 大阪府大阪市生野区桃谷1-3-23

本報告書についてのお問合せ先

経営戦略本部 企画グループ
TEL : 054-256-4319
<http://www.tomoegawa.co.jp>



TOMOEGAWA BUSINESS REPORT (報告書)については、弊社ホームページでの各種開示を一層充実させることで、株主の皆様への送付は、年1回6月頃のみとさせていただきます。

■ 100周年記念イベントを開催しました

(表紙のご説明)

2014年5月25日、静岡事業所にて100周年記念イベントを開催しました。各種ステージやグルメコーナーが設けられ、清水エスパルスOBや芸能人もゲストに迎えるなど、株主様、お取引先様、地域の皆様、OB、従業員が一体となり、4,000名ものご来場を賜る大変賑やかな1日となりました。

■ 台湾駐在員事務所を開設

2013年10月、台湾・高雄市に新たに駐在員事務所を設置しました。電子産業の集積が進み、より高い営業効率・効果も期待できる台湾に新たな活動拠点を設けることで、特に精密塗工・電子材料関連分野におけるグローバル展開をさらに拡大してまいります。

■ 静岡事業所ショールームをオープン

創業100周年を機に、静岡事業所内にショールームをオープンしました。CSR活動の紹介や100年の歴史を振り返る映像、歴史を支えた既存製品から新製品、技術にいたるまで、さまざまな展示をしております。ミニ抄紙機の実物も設置され、紙ができるまでの工程を分かりやすく紹介しております。また、これに合わせて東京本社ショールームも刷新しました。株主様で見学をご希望の際は当社ホームページお問い合わせフォームまでお願いします。



静岡ショールーム内のミニ抄紙機の展示の様子



東京本社ショールーム内のエントランスの様子